

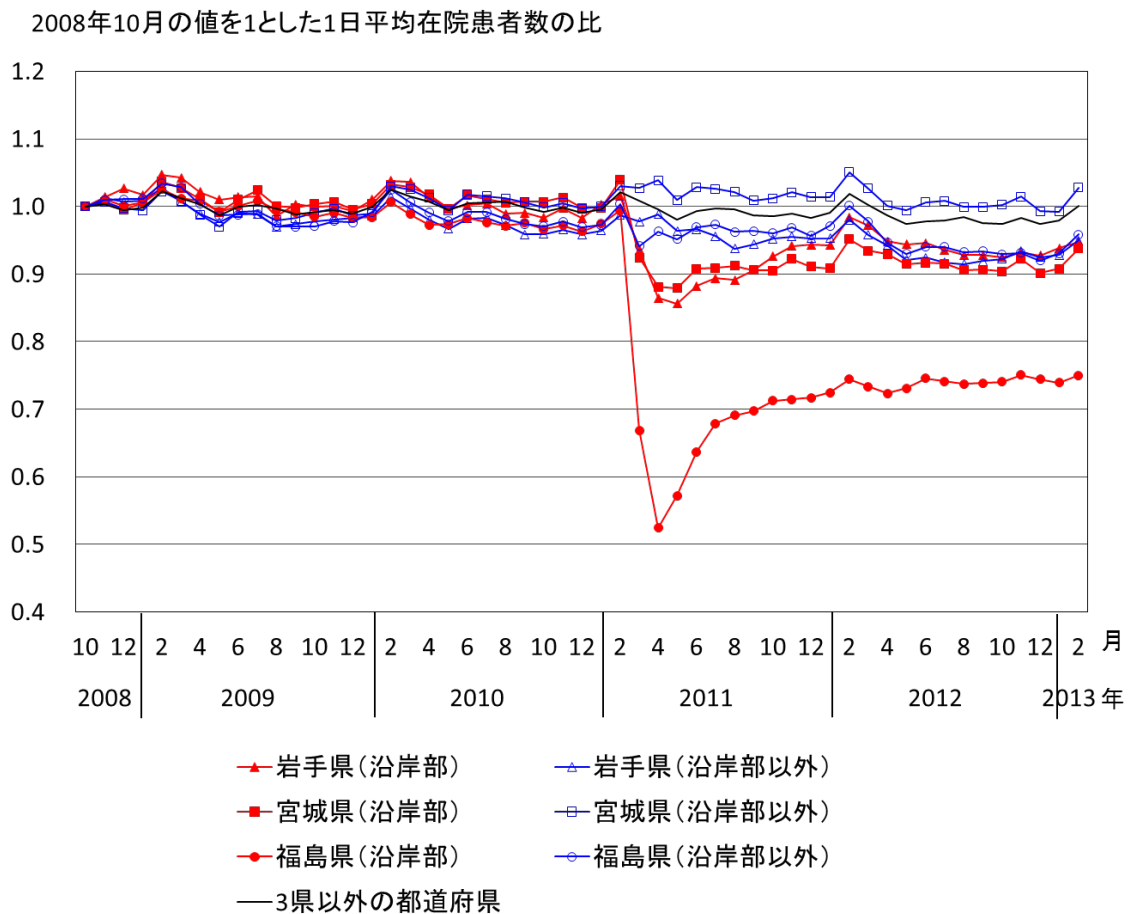
## 「東日本大震災前後における病院の患者数の変化」

東日本大震災前後の病院の患者数の変化について、岩手県、宮城県と福島県の3県で沿岸部と沿岸部以外の市町村別に、病院報告に基づいて検討しました。

図に、震災前と震災後2年間の病院の1日平均在院患者数について、2008年10月の値を1として月別に示します。3県の沿岸部の市町村をみると、1日平均在院患者数は2011年4月に震災による大きな低下が見られ、とくに福島県で顕著です。震災1年後まで上昇していますが、震災前よりも低い水準に止まっています。震災前と震災1年後の差は、岩手県と宮城県では大部分が病院の廃止・休止によるものでしたが、福島県では病院の廃止・休止と継続病院での在院患者数減少の両方でした。一方、震災の1年後から2年後には大きな上昇は見られません。

病院の1日平均外来患者数については、類似の傾向でした（図を省略）。すなわち、3県の沿岸部の市町村では、2011年4月に大きく低下し、震災1年後まで上昇しましたが、震災前よりも低い水準に止まり、そして、震災の1年後から2年後には大きな上昇は見られません。

図. 岩手県、宮城県と福島県の沿岸部・沿岸部以外の市町村別、  
病院の1日平均在院患者数の推移



以上、岩手県、宮城県と福島県の沿岸部の市町村では、震災後2年を経過しても、病院の患者数は震災前より低い水準でした。病院の施設や医療スタッフが大きな被害を受けており、その復興に時間を有することや、震災後の人口移動により被災地域で医療のニーズが減少していることなども考えられます。病院の再開や開設には時間を要することから、今後も観察を継続する必要があると考えています。（「三重野牧子，川戸美由紀，村上義孝，山田宏哉，橋本修二．病院報告に基づく東日本大震災前後における病院の患者数の変化．厚生学の指標，2016;63(13):20-24」を参照）

（三重野牧子）